

第44回建設業経理事務士検定試験

3級試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 甲工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～X）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 本社従業員から、かねて仮払金で処理していた旅費の概算払¥100,000を精算し、残額¥50,000を現金で受け取った。
- (2) 現場へ搬入した建材の一部（代金は未払い）に不良品があったため、¥55,000分の返品をした。
- (3) 乙社株式3,000株（取得原価@149円）を1株当たり155円で売却し、代金は現金で受け取った。
- (4) 銀行に預け入れていた定期預金¥300,000が満期となり、その利息¥6,000とともに期間1年の定期預金として継続して預け入れた。
- (5) 決算に際して、当期純利益¥530,000を資本金勘定に振り替えた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 定期預金	D 仮払金	E 有価証券
F 完成工事未収入金	G 仮受金	H 未払金	J 工事未払金	K 支払手形
L 未成工事受入金	M 経費	N 受取利息	Q 有価証券売却益	R 材料費
S 旅費交通費	T 資本金	U 減価償却費	W 完成工事高	X 損益

〔第2問〕 次の〈資料〉に基づき、下の設問の金額を計算しなさい。なお、収益の認識は工事完成基準を適用する。（12点）

〈資料〉

1. 20×5年9月の工事原価計算表

工事原価計算表

20×5年9月

（単位：円）

摘 要	A工事		B工事		C工事		D工事	合 計
	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	当月発生	
材 料 費	138,500	× × ×	× × ×	88,000	× × ×	163,500	56,000	997,600
労 務 費	223,300	225,000	135,000	101,000	145,000	× × ×	× × ×	1,095,300
外 注 費	× × ×	287,600	55,000	24,500	296,000	143,200	77,700	× × ×
経 費	85,000	128,400	23,400	× × ×	67,500	38,000	49,800	429,900
合 計	× × ×	995,600	× × ×	× × ×	607,500	× × ×	272,500	× × ×
備 考	完 成		完 成		未 完 成		未 完 成	

2. 前月より繰り越した未成工事支出金の残高は¥1,801,300であった。

問1 当月発生 of 労務費

問2 当月の完成工事原価

問3 当月末の未成工事支出金の残高

問4 当月の完成工事原価報告書に示される材料費

〔第3問〕 次に掲げる<20×6年3月中の取引>を解答用紙の合計試算表の(イ)当月取引高欄に記入し、次いで(ア)前月繰越高欄及び(イ)の欄を基に(ウ)合計欄に記入しなさい。なお、(イ)の欄の各科目への記入は合計額によること。なお、材料は購入の都度材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。(30点)

<20×6年3月中の取引>

- 2日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥372,000の請求を受けた。
- 4日 現場の電話代¥27,200を現金で支払った。
- 5日 工事契約が成立し、前受金として¥500,000が当座預金に振り込まれた。
- 8日 材料¥98,300を本社倉庫より工事現場に搬入した。
- 10日 本社事務員の給料¥270,000を現金で支払った。
- 13日 現場作業員の賃金¥300,000を現金で支払った。
- 14日 工事が完成して発注者へ引き渡し、工事代金¥1,546,000のうち、前受金¥250,000を差し引いた残額を請求した。
- 15日 現場事務所の事務用品代¥6,800を現金で支払った。
- 20日 本社事務所の家賃¥110,000を支払うために小切手を振り出した。
- 23日 銀行から¥700,000の借入れを行い、その利息¥8,000が差し引かれ当座預金に入金となった。
- 25日 工事の未収代金の決済として¥400,000が当座預金に振り込まれた。
- 26日 材料の掛買代金支払のため、小切手¥90,000を振り出した。
- 28日 借入金¥200,000 工事未払金¥150,000の支払いのため、それぞれ小切手を振り出した。
- 30日 掛けで購入し本社倉庫に保管していた材料の一部に不良品があり、仕入先より¥66,000の値引きを受けた。

〔第4問〕 次の文の の中に入る最も適当な用語を下の<用語群>の中から選び、その記号(ア～セ)を解答欄に記入しなさい。(10点)

- (1) 材料の a を把握する方法として継続記録法と b がある。
- (2) 未収利息は c の勘定に属し、未払利息は d の勘定に属する勘定科目である。
- (3) e は、工事ごとに発生した原価を集計できるように工夫された帳簿であり、 f の補助元帳としての機能を果たしている。

<用語群>

- | | | | | |
|-----------|----------|--------|---------|---------|
| ア 資産 | イ 負債 | ウ 工事台帳 | エ 消費数量 | オ 収益 |
| カ 費用 | キ 購入数量 | ク 資本 | コ 先入先出法 | サ 棚卸計算法 |
| シ 未成工事支出金 | ス 完成工事原価 | セ 材料元帳 | | |

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている丙工務店の当会計年度（20×5年1月1日～20×5年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を經由して処理する方法によっている。
(28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 現金の実際有高は¥946,500であった。帳簿残高との差額は雑損失として処理する。
- (2) 借入金利息の未払分¥17,500を計上する。
- (3) 機械装置（工事現場用）について¥87,500 備品（一般管理用）について¥32,000の減価償却費を計上する。
- (4) 有価証券の時価は¥396,000である。評価損を計上する。
- (5) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して3%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (6) 保険料には前払分¥6,800が含まれている。
- (7) 未成工事支出金の次期繰越額は¥735,000である。